JASE
現代性教育研究ジャーナル
2015年
No. 51
2015年6月15日（毎月15日）発行
日本性教育協会
THE JAPANESE ASSOCIATION FOR SEX EDUCATION

〒112-0002 東京都文京区小石川2-3-23 春日尚学ビル Tel.03-6801-9307 Mail info_jase@faje.or.jp URL http://www.jase.faje.or.jp 発行人 鈴木 勲 編集人 本橋道昭
© JASE. 2015 All Rights Reserved. 本ホームページに掲載している文章、写真等すべてのコンテンツの無断複写・転載を禁じます。

contents

性感染症と環状切除 …… 1
もっと知りたい女子の性⑧ …… 6
性教育の歴史を尋ねる㉗ …… 8
今月のブックガイド …… 9
JASEインフォメーション …… 10

性感染症と環状切除

国立保健医療科学院 統括研究官
今井 博久

ウイルス性の性感染症と環状切除

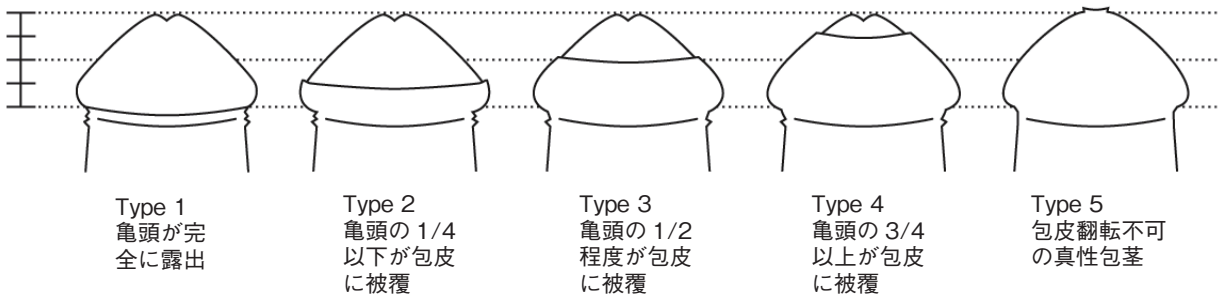
近年、男性の環状切除（いわゆる男性の割礼）は、ヒト免疫不全症候群（human immunodeficiency syndrome virus：HIV）、ヒトパピローマウイルス（human papilloma virus：HPV）、ヘルペスウイルス（herpes simplex virus：HSV）などのウイルス性の性感染症、あるいは陰部に潰瘍性病変を起こしてくる梅毒の予防効果があるということがいくつかの研究で示された。このようなことが分かってきた背景はHIV感染症を例に挙げて歴史を振り返ると分かりやすい。

環状切除とHIV感染症との関係は、1990年代初めに小さな報告で何らかの関係があるらしいということが指摘され始めた。1990年代後半にアフリカのHIV感染症の流行地域と非流行地域とを比べたエコロジカルな研究で、伝統的に環状切除が行われている地域ではHIV感染症の有病率が低いということが示された。

その後2000年代に入ると盛んに研究が行われ、2005年から2007年にアフリカで行われた大規模無作為研究が相次いで発表され、ヘテロセクシャルな男性では環状切除によりHIV獲得のリスクが半減することが示された[1-3]。この結果を元に、2007年にWHOは、ヘテロセクシャルなHIV伝播が主な伝播様式であるHIV蔓延地域でかつ環状切除が行われていないところでは、環状切除はHIV感染予防の重要な柱の一つであると位置づけた。現在アフリカの13か国では国策として成人男性に対する環状切除が行われている。

男性の環状切除は、ペニスの包皮を文字通り環の様に一周切り取る手術である。医学的には包皮が翻転して戻らなくなった嵌頓包茎（かんとんほうけい）に対して手術適応があり、国内ではそれ以外に美容上の理由等で行われることがある。しかし、国内でどれくらいの環状切除がどういう理由で実施されているか等に関する正確なデータはない。環状切除は整った医療環境で適切に行われれば安全に行える手術であるが、出血、感染、ペニスの変形や勃起障害など合併症も皆無ではなく、アフリカで

図１　質問紙でのペニスの状態



は小さい刀を用いて止血をしない伝統的方法で行われた場合に出血により死亡した症例も報告されている。なお、米国の様な医療先進国でも宗教的かつ伝統的な環状切除が行われており、環状切除後に傷口を吸うという行為で広がったヘルペスウイルス（HSV）感染アウトブレイク事例が報告されている[(4)]。

日本では性感染症予防対策としてはなじみが薄い環状切除であるが、はたして日本でも本当に性感染症予防効果を有するのだろうか？　どのような理由であれ環状切除という行為は日本人になじまないという意見があるが、コンドーム使用の普及や教育による性行動変容が十分な効果をあげておらず、HPV を除き有効なワクチンも限られている現状では、日本における環状切除について知ることは性感染症対策を包括的に考える上で意味があると考えられる。

だたし、性行動は文化や宗教に大きく影響を受け、一般的な衛生状況も違うため、アフリカにおける研究結果をそのまますぐに日本に当てはめることはできない。日本における日本人に対する環状切除の疫学研究が必要であろう。

性感染症の研究では訓練された医療従事者による陰部の診察が重要だが、それを医療機関以外の場所で行っていくことはしばしば困難である。医療機関以外の場所での研究では診察に代わり自己申告が用いられることがあり、環状切除についての自己申告は米国やオーストラリアからの報告で妥当性に問題ないと報告されている。もし日本で環状切除と包皮についての自己申告が問題なく使用できるならば、今後日本における環状切除に関連する疫学研究に有用である。そこで、包皮と亀頭との関係を示すペニスの状態について独自に開発した質問紙上の自己申告が正しいかどうかを調べる研究[(5)]を国立感染症研究所の山岸医師らと行ったので、ここで紹介したい。

環状切除の質問紙

本研究では、独自の質問紙によるペニスの状態と環状切除の自己申告を経験豊富で質問紙について訓練された泌尿器科医による診察結果とを比較した。対象は 2009 年から 2010 年にかけて神奈川県内の 1 病院と 2 診療所を受診した 18 歳以上の日本人男性とした。医療機関は性感染症の患者が中心の診療所と性産業の繁華街がある地域の一般内科及び公立病院泌尿器科を選択した。

質問紙でペニスの状態に関しては、包皮と亀頭が性感染症のリスクに重要であると考え、非勃起時の両者の関係をもとにペニスの状態を 5 つの型、つまり Type1：完全に露出した亀頭、Type2 は 1/4、Type3 は 1/2、Type4 は 3/4 以上、Type5 は包茎、に分類した（**図 1**）。

ちなみに包皮がまったく翻転できない状態を真性包茎といい、非勃起時には包皮が亀頭を覆っているが、翻転できる状態を仮性包茎と日本では呼んでおり、英語の“phimosis”は真性包茎のことを指している。対象患者は調査後に診察を受けることを知らされずに質問紙での調査を打診された。参加に同意した患者はクリニックの待合室でペニスの状態と環状切除に関する質問紙への記入を行い、医師は診察室で患者の回答を参照せずに、同じ質問紙に診察結果を記載した。

調査には、合計 192 人が参加し、性感染症の患者が中心の診療所からの登録が多く、一般内科診療所や公立病院泌尿器科からの参加は予想より少数にとどまった。192 人のうち 4 人は不完全な回答であったため解析から外した（**表 1**）。結果 188 人の有効回答が得

表１　調査対象の基本情報

	性感染症診療所	一般内科診療所	公立病院泌尿器科	合計	p 値＊
有効回答数／配布・回収（割合）	129/133（97.0）	33/33（100.0）	26/26（100.0）	188/192（97.9）	
年齢　中央値（範囲、歳）	41（20–89）	39（18–70）	43（19–68）	40.5（18–89）	0.25
主訴・診断					
陰部疾患・性感染症	110	26	2	138	< 0.01
腹部・尿路疾患	13	5	22	40	
他の疾患	6	2	2	10	
環状切除（割合）	15（11.6）	1（3.0）	1（3.9）	17（9.0）	0.19

＊年齢は重回帰、主訴・診断と環状切除は Fisher の LSD 法で多重比較

表２　ペニスの状態に関する医師の診察と患者の自己申告の比較

		医師の診察					
		Type1	Type2	Type3	Type4	Type5	合計
患者の質問紙上の自己申告	Type1	64	5	0	0	0	69
	Type2	9	26	14	3	0	52
	Type3	0	0	25	18	0	43
	Type4	0	0	2	16	1	19
	Type5	0	0	1	2	2	5
	合計	73	31	42	39	3	188

Linear weighted Kappa 0.76（95% 信頼区間　0.70 – 0.81）、% agreement 71%

表３　環状切除と包皮の有無

環状切除	包皮の状態					合計
	Type1	Type2	Type3	Type4	Type5	
あり	13	1	3	0	0	17
なし	60	30	39	39	3	171
合計	73	31	42	39	3	188

られ、年齢は 40 歳代中心で 18 歳から 89 歳に及んだ。

ペニスの状態に関して自己申告と医師の診察との比較は**表２**に示した。主な参加者は性感染症患者だが、腰痛や健康診断などの人も含まれていた。両者の一致の状況を示す κ（カッパ）と % agreement はそれぞれ 0.76、71% であり、妥当性が確かめられた。

自己申告と医師の診察の比較では患者が包皮なしの方向に申告していた不一致が 43 人おり、この不一致は若い年齢と関連していた。環状切除に関しては、医師の診察では 17 人（9.0%）が環状切除を受けており、その自己申告は医師の診察と完全に一致していた。

環状切除と包皮との関係を**表３**に示す。17 人の環状切除を行っていた人の中で 3 人（17.6%）は環状切除後にもかかわらず亀頭が包皮に覆われており（Type3）、171 人の環状切除未施行者の中で 90 人（52.6%）は切り取るべき包皮が亀頭を十分覆っていなかった（Type1、Type2）。

日本における性感染症対策としての環状切除について

本研究では、ペニスの状態に関しての自己申告は、ある程度の誤報告の可能性があるものの、妥当性には問題ないことが確認された。誤報告の原因を考えると、多くは Type が一つ違うだけのものであり、図の解釈の違いによると考えられたが、興味深いことに若年者は医師の診察と比べて自分のペニスは包皮で覆われていない方向に自己申告していた。これは若者の間で自分のペニスに対して他人と比較されることに対するた

めらいがある可能性を示唆している。

本質問紙を若年者で使用する場合には、調査の目的を理解してもらい真実を記載してもらうように十分注意して説明していく必要がある。この質問紙を用いれば、病院をベースにした研究以外に、地域での研究も可能であると考えられ、ペニスの状態や環状切除の実態、環状切除に対する考え方等を今後明らかにする足がかりとなると思われる。

日本は性に関して公に議論する雰囲気が乏しいが、こういった研究が嘲笑の対象ではなく、科学だという切り口で進めていくことで何らかの変化を期待したい。

環状切除に関しては自己申告と医師の診断はすべて一致しており、9.0% の人が環状切除を受けていた。環状切除の割合は米国 58-83%、韓国 78%、オーストラリア 59%、英国 15.8%、ブラジル 3-10%、スロベニア 5% と報告されており、日本は環状切除の割合が低い国の一つであることが分かった。

本研究は対象が神奈川県内の性感染症患者に偏った研究であるため、この割合は日本の一般人口を代表しているとは言えない。今回の研究では環状切除を受けた時期や理由を尋ねていないが、環状切除を日本人がどう考え、どういう理由で手術を受けているかも性感染症対策として環状切除を評価するためには重要であり、今後明らかにされなければならない分野である。

更に、環状切除未施行者でも切り取るべき包皮がない人がおり、反対に環状切除者でも必ずしも包皮が十分なくなっていないという新たな事実もわかった。このことは、環状切除をすることでメリットがある人とない人がいること、環状切除の HIV 獲得予防効果は包皮を切り取るということ以外に何かの別の因子が関係している可能性があることを示唆している。

例えば、前述のアフリカで行われた 3 つの研究では環状切除と非環状切除群に対して、等しく性教育を施したとしているが、環状切除群の方が手術を受けたことで、高い教育効果があった、等である。環状切除の性感染症予防効果の生物学的根拠には、HSV や HPV と直接接触する角化の乏しい包皮内板、性交中の微小損傷、HSV や HPV に適した包皮内の湿潤環境、包皮内に HIV 標的細胞が豊富に存在すること、包皮の炎症による皮膚のバリアー破綻などが唱えられている。このような生物学的根拠を明らかにするためには、環状切除と性感染症との関係を調べるとともにリスクと考えられる包皮自体と性感染症との関係を調べる必要がある。

ここで評価した質問紙は日本でどのような使い方があるだろうか。現在までの知見を整理すると環状切除と HIV 感染症との関係では、ヘテロセクシャルな男女で女性から男性への HIV 伝播のリスクが半減すること、及びヘテロセクシャルな HIV 陽性男性から HIV 陰性女性への感染伝播のリスクは変わらないということが報告されている。

また、日本を含む先進諸国では HIV 感染症が主に男性と性交渉をする男性（Men who have sex with men：MSM）の間で起こっており、肛門性交においても膣性交と同様に環状切除が HIV 獲得リスクを減らすかどうかについては欧米で幾つかの研究が行われているがまだ一定の見解を得ていない [(6)]。そのため環状切除を性感染症対策として評価するためには、日本においてペニスを挿入する側の MSM で HIV 獲得予防効果があるのかどうかを調べていく必要がある。

また、欧米では HIV 以外の性感染症のうち HSV、HPV、梅毒、クラミジア感染症等で環状切除との関係が研究されているが、同じ感染症であっても関係有りとする報告と関係を認めなかったという報告が混在している。実際に日本でそれらの性感染症と環状切除がどういう関係にあるかを調べていく際には、本質問紙が有用であると考えられる。

環状切除はアフリカのヘテロセクシャルな成人男性において HIV 獲得のリスクを半減することは確かである。アフリカにおいて HSV や HPV の獲得予防効果が有ることも証拠が整いつつある。HPV による子宮頸がん患者が増加し、男性性器の HPV 感染の研究報告もされてきているが、先進国において HSV、HPV、梅毒の獲得リスクに対する影響に関してはまだ十分な結論が出ていない。また、新生児男児への環状切除に関しても成人男性への環状切除と同様の HIV 獲得予防効果があるかはわかっていない。

おわりに

欧米の環状切除推進派のなかには、性感染症全般の対策として環状切除、特に新生児環状切除を進めていこうという動きがあるが、その対策について有効性を示す十分な証拠はまだない。日本における日本人の

間で環状切除の効果はまだ不明である。

日本では環状切除は文化的になじまないという意見で一蹴してしまえるほど、十分な性感染症対策の方法を我々は持ち合わせていない。日本でも環状切除に関する現状がどういう状況で、性感染症対策として有効かどうかを確認し、対策として進めた場合の効果と費用を考え、日本人にとって必要か必要でないかの検討が不可欠である。

環状切除は「包茎の手術」ということで週刊誌の裏にある広告のようなイメージがある。実際のところ、軽視され見下される場合がある。しかしながら、世界中で HIV や HPV による感染が深刻な状況になり、多くの尊い命が失われている現状を直視すれば、環状切除が真剣に性感染症対策の選択肢の一つとして議論されなければならないことが認識されるだろう。

なお、本論考は筆者の既報告と重複することをご了解いただきたい。また再掲を許諾いただいた共同研究者に心から感謝するものである。

〔参考文献〕

(1) Bailey RC, Moses S, Parker CB, et al. Male circumcision for HIV prevention in young men in Kisumu, Kenya: a randomised controlled trial. Lancet 2007;369:643-56.

(2) Gray RH, Kigozi G, Serwadda D, et al. Male circumcision for HIV prevention in men in Rakai, Uganda: a randomised trial. Lancet 2007;369:657-66.

(3) Auvert B, Taljaard D, Lagarde E, Sobngwi-Tambekou J, Sitta R, Puren A. Randomized, controlled intervention trial of male circumcision for reduction of HIV infection risk: the ANRS 1265 Trial. PLoS Med 2005;2:e298.

(4) Centers for Disease Control and Prevention (CDC). Neonatal herpes simplex virus infection following Jewish ritual circumcisions that included direct orogenital suction – New York City, 2000-2011. MMWR Morb Mortal Wkly Rep. 2012;61(22):405-409.

(5) Yamagishi T, Imai H, Nakao H, et al. Inter-rater reliability of self-reported response on foreskin status in questionnaire among Japanese adult men. Sex Transm Infect 2012;88:534-538

(6) Wiysonge CS, Kongnyuy EJ, Shey M, et al. Male circumcision for prevention of homosexual acquisition of HIV in men. Cochrane Database Syst Rev 2011:CD007496.

JASE 性教育・セクソロジーに関する資料室

資料室について

JASE 資料室は国内外の性教育、性科学等に関する文献資料を収集している開架式資料室です。文献資料の数は約６万点以上、現在も日々、増え続けています。性教育、セクソロジーに関する調査、研究のためにご利用いただけます。人間の性に関心がある方、ぜひ足をお運びください。

資料室利用方法

【閲　覧】必ず事前に電話で予約が必要です（tel 03-6801-9307）。貸出業務は行っておりません。
【開室日・時間】月～金曜日 10：30 ～ 17：30
【休室日】土・日曜日、祝日、年末年始　※この他、会議等で臨時に休室することがあります。
【コピーサービス】コピー料金は用紙サイズにかかわらず１枚 10 円です。著作権法の許容する範囲で行うものとします。
http://www.jase.faje.or.jp/pub/archive.html

収集文献・資料

統計・調査報告書、ジェンダー・フェミニズム、性教育一般・性教育の歴史的資料、国内雑誌、障害者、セクソロジー（自然科学系、人文・社会学系）、民俗学・文化人類学・風俗、性研究史・性学史、教科書・指導書・学習指導要領、幼児期～青年期、国内学術誌、国際（海外団体資料・海外学術誌）、高齢者・家族問題、文学・評論・エッセイ・文庫・新書、官公庁資料、JASE 刊行物、映像資料、個人論文、雑誌記事、新聞記事、絵本・写真集・マンガ、江幡・篠崎・朝山・石川・ダイアモンド文庫、ほか。
http://www3.jase.faje.or.jp/cgi-bin/search1.cgi

女子の性 隔月連載8

生物人口学の話

早乙女智子
神奈川県立汐見台病院
産婦人科産科副科長

今年も日本人口学会に行ってきました。「人口学」とは耳慣れない方も多いことでしょう。

人口問題には、今、盛んに問題にされている少子高齢化だけではなく、移民や都市部への集中などの人口移動の問題や、歴史人口学や経済学、社会学など、様々な分野が関係しています。もちろん、性行動や子育て支援など、ジェンダーも関係しています。言い換えれば、人口問題は実は究極の女性問題の一つでもあるかも知れません。

◇　◇

今回、私が発表してきたのは「社会は誰に産んで欲しいのか――ミクロとマクロのニーズ」というタイトルです。生物人口学のセッションの中で、主に妊娠までの「妊娠待ち時間」TTP（time to pregnancy）がテーマでしたが、私は近年の出産統計から出産動向のトレンドをつぶさにみてみました。

出産行動は、個人やカップルの希望子ども数や理想子ども数で規定されると考えますが、それはどうやって決まるのか、実はわかっていません。例えば、子どもは２人でいい、と思っていたのに、友達が３人目を産んだら自分も産みたくなった、というのはよくあることですし、子どもなんて考えてもいなかった女性が、親の死や流産をきっかけに子どもを持つことに目覚めることもあります。

こうした行動心理学的な影響も考えなければなりません。また、タレントさんが高齢で出産した、という報道がされれば、同じ年齢の方が不妊治療に殺到したり、卵子の老化が報道されると、高齢の女性が急に受診をしなくなったり、個人の出産行動は、洋服や暮らし方の他の流行と同じように、トレンドがあるようです。

また、個の保存と種の保存のバランスを取った時に、個体として得な方を選ばざるを得ない場合もあります。生物的には、妊娠すると生命のリスクを負うようなときには排卵障害が起こります。簡単に言うと、痩せすぎでは妊娠によってつわりで食べられないだけで時には脳の栄養障害が起こるので、妊娠を避けるために排卵障害が起こりますし、太り過ぎると妊娠高血圧症候群や妊娠糖尿病のリスクが上がるためか、やはり排卵障害が起こります。人間は寿命と排卵可能年齢の上限がかけ離れていますが、これも寿命ぎりぎりまで妊娠することは個体として得ではないからでしょう。

◇　◇

現代では子どもたちに性教育をする時に、大人はどのようなモデルを想定しているのでしょうか。自分たちと同じ２、３人子どもを持つことをよしとするのか、江戸時代の大家族のようにできただけ産むことを考えるのか、あるいは近未来の個人主義的な生き方を勧めるのか、選択肢の提示の仕方によっては子どもたちは混乱するばかりでしょう。少子化で人口が減るだけでなく、労働人口の減少によって税金比率が上がることは想像に難くありません。そのようななかで、子どもを産んで経済的に立ちいくのかどうか、不安ばかりが先に立っていることでしょう。

現代社会の問題は、少子高齢化に次いで、すでに人口減少社会が始まっている現在、今までの右肩上がりの経済による正の遺産、負の遺産を若い世代が背負ったり処理していくにあたって、「どう生きるのがお得か」を模索して選択した結果が社会にとってもお得かどうか、という問いだろうと思います。正の遺産は言うまでもなくインフラの整備です。しかし、一方でその老朽化や維持費、あるいは国の負債等をどうするかという問題も切実です。戦後の人口政策が高度成長時代をつくり、その恩恵にあずかってきた一方で、意識的かどうかは別として、多様化や個人化した社会は、イエ制度の縛りを緩め、家族や地域の繋がりを離れると共に、伝統や文化など、守るべき何かも一緒に捨ててきたかも知れません。

その答えはこれからの若者が改めて見つけていくものだとしたら、私たちは自分たちの生きてきた過去

を正当化するだけでなく、彼らの新しい生き方を勇気を持って支援すべきではないかと思います。

そしてそれは、カップルの決めることとは言え、主体的には主に女性がどう生きるかにかかっているので、女性は自分の人生に責任を持つ自信と自由を合わせ持つ自覚が必要です。人は何を幸せと感じて生きるのか、そのカテゴリの一つにパートナーや子どもがありますが、もちろんそれがすべてではありません。今の若者にパートナーを決めることや子どもを持つ意味や幸せをどう説明したらいいのか、それも性教育の大事な課題でしょう。

◇　◇

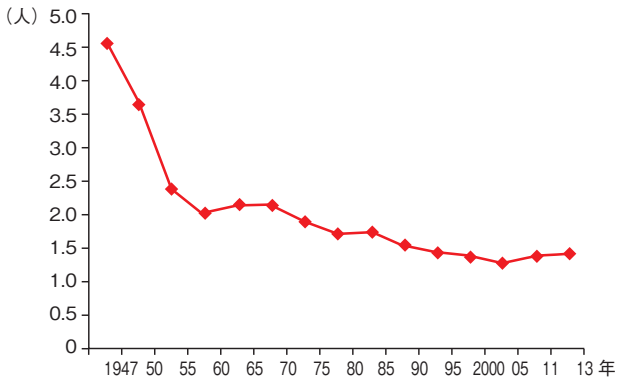
多くの子どもを産んでいた昔の女性も、国のために貢献しようと子どもを持つのではありません。もちろん、トレンドとして戦前は「産めよ増やせよ」で10人産むと表彰されていたように、外圧はあったと思います。私の祖母は9人産んだそうですが、後になって子どもは一人いればよかった、と言っていました。

避妊法のなかった時代の選べない女性の生き様です。大学時代にお世話になった借家の大家さんは、戦争で夫を失ったあとも、逆縁としてその家の3男と再婚して家を守らされたそうです。女の仕事といえば家事育児という時代がわずか3代前くらいまで続いていたことを思うと隔世の感がします。

国勢調査などでは、相変わらず希望子ども数は2～3人であるにも関わらず、実際生まれるのは、最新データで1.42人と、日本では様々な策が取られているように見えて、欧米に比べてあまり功を奏していないようです。日本では、社会保障が嫡出子とそれ以外で大きく異なるため、妊娠すると出産までにはほとんどの人が籍を入れ、出産の4人に1人は妊娠先行型結婚となっています。その割には20代の出産は減少し続け、20代の2人目以降も著しく産みにくくなっているようです。

このところ、かろうじて年間の出生数が100万件を切っていないのは、30代から40代に出産する女性が増加しているからで、30年くらい前には妊娠しにくいと思われていた40代でも実数は少ないものの実は体外受精ではなく、自然妊娠で出産しているようです。体外受精全体で年間4万人が生まれるようになりましたが、35歳から39歳までの初産が2013年では8万人にもなり、実はこの年代でも自然妊娠の方が多く、2人目も9万人も生まれるようになったのです。この高齢出産化の効果もそろそろ終わるので、出生数増加を期待するなら20代の出産に注目する必要がありますが、さて、そう言われても如何ともしがたいのが現状でしょう。号令はかけられていても準備がされていない、制度はあってもトレンドが形成されていない気がします。

合計特殊出生率（厚生労働省「人口動態統計」）



◇　◇

日本では早くからテレビが普及し、今では大人も子どもスマホ依存が増加するなど、触れ合うことや会話すること、人を楽しませたり和ませる機会が減っているのではないでしょうか。時間に追われ、年齢を気にして、女性の活躍などと持ち上げられる割にはジェンダーギャップがきつい国、日本で働き続けることで一杯一杯の女性たちをみると、痛々しさしかありません。

一方の男性も、だから僕が働いて守ってあげるよ、と言いたくても長時間労働、低賃金ではどうしようもありませんし、守ってあげるつもりがデートＤＶになってしまえば、お互いが傷ついてしまうことでしょう。

今更過去には戻れませんから、これからの新しい生き方を支援することになると思いますが、それでも人の関係性や永続性を望む気持ちに時代は関係ないと信じたいものです。一人では生きられない、しかし自由も欲しい、そんな個の時代に子どもを持つ意味は、性教育として教えるというより、今のニーズを知る対話から始めるべきなのかも知れません。

性教育の歴史を尋ねる

戦後・純潔教育編

茂木輝順

第27回 『男女の交際と礼儀』の作成（その３）

もてぎ　てるのり
女子栄養大学大学院栄養学研究科保健学専攻博士後期課程修了、博士（保健学）

前回に引き続き、今回も『男女の交際と礼儀』（以下、本書）について、述べたいと思います。

本書が作成されることになったきっかけについて、『婦人公論』1951年１月号の「原案ができるまで」では、「文部省が昨年秋『男女の交際と礼儀』（原名）について着手したのは、教育界、婦人団体、青年団体、PTA等の具体的な要望・建言によるものであった」[1]と説明されています。

戦後、新制中学校や（私立や一部の地域を除いて）新制高等学校は基本的に共学制になっていきました。また、青年団・女子青年団も、戦後、男女合同での活動が増え、組織的にも合併して男女合同となった青年団も増えていました。異性とのかかわり方がわからないという青少年や、子どもが異性と共に過ごすことを心配する保護者は少なくなかったと考えられます。本書が発行された前後にも、男女の交際についての特集や報告を掲載している雑誌がいくつもあります[2]。文部省に男女の交際についての基準をつくってもらいたいという声もたしかにあったでしょう。

その一方で、本書の起草小委員会のメンバーであった千本木道子は、本書の作成の発端が寺本慧達の提案にあったことを述べています。次のとおりです。「この問題は委員のお一人千代田高等学校長寺本氏が『いかに敗戦国とはいえ、街を歩いても、どこえ行つても、礼儀というものがすつかり廃れてしまつていて、実に情けない情態だ、何んとかこの委員会あたりから、基本になるようなものを示したいではないか。』ということを申された。委員達も日頃感じておつたことでありますので、早速この問題をとりあげることゝしたのであります。」[3]。

いつごろのエピソードであるのかはわかりませんが、第24回で述べたように、本書の作成の動きが遅くとも1949年５月に始まっていたことから考えると、純潔教育委員会におけるエピソードであると推測できます。

また、結果的に、本書が発行されたのは1950年11月ですが、この発行時期の決定には、出版費用の予算化という点が大きく関係していたようです。

前々回、1950年５月頃までには、本書の執筆がある程度のところまで進んでいたことを述べましたが、その後、７月頃までには、起草小委員会による内容を決定する作業はおおかた終了していたようです。このことは、文部省社会教育局純潔教育分科審議会係による、以下の同年７月の総会を延期した旨の７月21日の通知によってわかりました。「かねてから本審議会において懸案中の『若い男女の交際』は小委員会において一応の内容的決定をみましたので、次回総会に提出すべく目下係りにおいてこの整理に努力致しておりました所第８臨時国会開催に伴う予算編成のため非常に多忙をきわめ、そのため７月の本審議会総会は去る14日の予定日に開催することが出来ず、延期の止むなきに至りました」[4]。この通知でいう「整理」が、校正やタイプなどの補助的な作業なのか、文章の執筆のような根幹的な作業も含んでいるのか、詳細はわかりませんが、文部省社会教育局の係が、純潔教育分科審議会の総会開催を延期させるほどの、本書についての重要な役割を担っていたことがうかがえます。

その後、この「整理」の作業は、出版費用に関わる事情から、急ピッチで進められたと思われます。それをうかがえるのが、以下の８日後の７月29日の通知です。「懸案中の男女交際と礼法につきまして、その後行政上の雑務に追われ心ならず整理がおくれ、総会開催を御願申上ることを延引いたしておりましたところ、この間予算の関係上急拠（ママ）決定の上出版に廻さなければ経費捻出が不可能になる状態に変化してまいりました」[5]。

（注）
（1）「男女交際のモラルとエチケット」『婦人公論』37巻１号中央公論社1951年p.215
（2）例えば、『婦人生活』（同志社発行）1949年１月号、『青い花』（交友会青い花社発行）1949年７月号、『ACORN』（エーコンクラブ発行）1949年７月号、『弁論』（信友社発行）1951年３月号、など。
（3）千本木道子「「男女の交際と礼儀」について―委員の一人として」『婦人新報』No.607（1950年12月号）p.2
（4）「（昭和25年７月21日）総会延期の通知」『純潔教育委員会記録（純潔教育分科審議会記録含）』［同志社大学人文科学研究所所蔵］収録　※本通知にはタイトルが見当たらないため、便宜上「総会延期の通知」と付けた。以下（5）も同様。
（5）「（昭和25年７月29日）総会開催の通知」同上収録。

BOOK GUIDE
今月のブックガイド

LGBT 初級講座
まずは、ゲイの友だちをつくりなさい

松中 権著
講談社
定価 840 円＋税

2010 年代の空気を体現

本書は、性の多様性を解説し、そこにゲイである著者のライフストーリーを重ね合わせた一冊である。というと、「90 年代このかた出版され続けている“カミングアウト本”の一つ？」と思う手練れもいるかもしれない。けれど、ゲイといっても十人十色、その人なりの人生があり、そこに執筆時の時代性が色濃く反映されている。

著者、松中権氏は 1976 年生まれの電通マン。自身の所属する企業名を明らかにして、企業人としてのゲイの実状を著したのは、氏が初めてである。この本によると、彼は会社員の枠を出て、2010 年に LGBT のための NPO を設立。ダイバーシティのコンセプトを持つカフェやシェアハウスをオープンしたり、学生のための就活イベントを催してきた。先般、話題となった、渋谷区の同性パートナーシップの条例の成立にも関わっている。

その活動戦略は、利用できる社会的資源やネットワークを駆使して、多様性の理念を現実の形にしようとするものだろう。具体的かつ社会生活に寄り添ったものであることが、旧来の差別告発型のアクティヴィズムと趣を異にしている。そして、松中氏を中心とした動きが起爆剤となり、今、日本の LGBT をめぐる状況は新しい段階に入った。それは昨今のメディア報道の急増や、パレードの賑わいを見れば明らかである。

日本の性的マイノリティの運動は、70 年代の、ごくかぎられた人物らによるカミングアウトや、ウーマンリブのなかに生まれたレズビアンの運動を嚆矢とする。80 年代になると、欧米の影響を受けた市民団体が結成され、1991 年には、動くゲイとレズビアンの会による「府中青年の家事件」の裁判が争われた。ここに初めて、同性愛は人権問題にエントリーすることとなり、同時期にメディアで盛んに取り上げられたこともあって、一般にもその存在が可視化されるようになった。その後、性同一性障害の問題などもクローズアップされ、同性愛者以外の性的マイノリティの抱えた問題も知られるようになった。また、ジェンダー・スタディーズから派生したクィア・スタディーズなどの言説が蓄積され、アカデミアにポストも獲得する。

しかしそうした運動や思潮は、反権力、反国家、反資本主義…の色彩を強め、かかわる人の少なからずが、“力関係”に無謬であろうとするあまり、現実社会に対するコミットメントを等閑視してきたかもしれない。それは現状を固定しないまでも、変革への大きな後押しにはならなかった。

そんな閉塞した性的マイノリティをめぐる 2010 年代の状況に、社会運動とはほど遠い企業社会のど真ん中から、著者のような「活動家」が現れたのは、まことに興味深い。企業や行政を積極的に動員する手法は、既存の社会秩序や権力を否認する思弁的な議論からは（ありがちな）批判の対象にされかねない。しかし今日、松中氏らの活動に牽引され「社会が動いている」のを実感できる事実は、否定できない。そのことは、解放運動型のアクティヴィズムや、言説の生産を担ってきた研究者にも、考えるべき点があることを示していまいか。

ここに綴られた松中氏の率直な言葉や文体は、LGBT をめぐる 2010 年代の空気を体現しているだろう。明るく、フットワークが軽い。カミングアウトに関する彼のメッセージに、その肯定的な姿勢がよく表れている。

「……自分に嘘をつかない自分。その自分の眼で見る世界は、これまでとは大きく変わっているはず。失うものを恐れるか、飛び込んでくる未来を楽しむか。いろいろな意見があるけれど、僕個人としては、カミングアウトすることを勧めたい」。（作家　伏見憲明）

研究会、研修会等の情報を下記まで、郵送または、Fax03-5800-0478でお寄せください。
〒112-0002　文京区小石川2-3-23春日尚学ビル B1
日本性教育協会「JASE ジャーナル」係

全国性教育研究団体連絡協議会

8月3日（月）10：00～16：40
8月4日（火）9：30～16：30

第 45 回 全国性教育研究大会

第16回九州ブロック性教育研究大会

テーマ

子どもや社会の様々なニーズに対応できる性教育を探る

プログラム

1日目：10：00～10：30　開会行事　挨拶・祝辞・次期開催地挨拶
10：35～11：25　講演　「性教育のこれからに期待すること（仮題）」森　良一
（文部科学省スポーツ・青少年局学校健康教育課教科調査官）
13：10～14：00　基調講演　「学校における性教育の現在とこれから」石川哲也
（全国性教育研究団体連絡協議会理事長）
14：10～16：40　記念講演　「人間の性とは何か」ミルトン・ダイアモンド（ハワイ大学教授）
通訳・東　優子（大阪府立大学教授）

2日目：9：30～12：00　課題別講義　「学校における性教育の考え方、進め方」「養護教諭に求められる性教育推進の役割」「性教育に生かしたい生殖医学の最新情報」「発達障がいと性に関する指導～具体的事例を通して～」「性別（ジェンダー）承認をめぐる国際社会の動向」
13：30～16：30　分科会　「小学校における性教育の実践」「中学校における性教育の実践」「高等学校における性教育の実践」「特別支援教育における性教育の実践」「児童養護施設、相談機関における性の課題と対応」

セクシュアリティ講座

午　前　「子どもや大人が学ぶ『LGBT フレンドリーな学校・職場』づくり」
講師：池上千寿子（前ぷれいす東京代表）

午　後　「性の多様性を学び、児童・生徒への支援の在り方を探る」（市民公開講座を兼ねる）
講演①「性同一性障害の基礎知識と医療の実際」
講師：中塚幹也（岡山大学大学院教授・GID 学会理事長）
講演②「性的マイノリティ当事者の生きづらさと今後の課題を考える」
講師：日高庸晴（宝塚大学教授）
講演③「セクシュアルマイノリティと法」
講師：森　あい（LBGT支援法律家ネットワーク・弁護士）

会　場　8月3日（月）くまもと森都心プラザ
8月4日（火）くまもと森都心プラザ・くまもと県民交流館「パレア」・アークホテル熊本城前

参加費・問い合わせ先等

参加費／両日参加：一般 6,000 円、学生 2,000 円、1 日参加：一般 3,000 円、学生 1,000 円
主　催／全国性教育研究団体連絡協議会、九州ブロック性教育研究協議会、熊本県性教育研究会
協　賛／日本性教育協会　　後　援／内閣府、文部科学省、厚生労働省ほか
問合せ先／メールアドレス：kumaseiken@ina.bbiq.jp（メールのみの受付）
締　切／平成 27 年 7 月 17 日（これ以降は参加者名簿には記載されません）

7/3（金）～7/5（日）

日本家族計画協会
第 11 回「ピアカウンセラー養成者」養成セミナー（前期）

講師：高村寿子（自治医科大学名誉教授・日本ピアカウンセリング・ピアエディケーション研究会代表）、安達久美子（首都大学東京教授）、前田ひとみ（熊本大学教授）、渡辺純一（井之頭病院臨床研究室教育担当 CNS・科長）

【プログラム】前期：ベーシックコース
※後期：スキルアップコースは 11/14（土）～ 15（日）開催

1日目：ピアカウンセリング事業の目的と具体的な展開、「健やか親子 21」の最終評価及び「健やか親子 21（第2次）」について、エンカウンター演習Ⅰ、構成的グループエンカウンター総論、エンカウンター演習Ⅱ・Ⅲ、ほか。
2日目：ピアカウンセリング理論／基本概念、ピアカウンセリング８つの誓約、ピアカウンセリング・ベーシックスキル、ほか。
3日目：エンカウンター実習準備Ⅱ、エンカウンター実習発表、試験、評価・まとめ・クロージング。

【会　場】保健会館新館　多目的ホール（東京都新宿区市谷田町１－10）

【問い合わせ先等】
受講料／前期 72,000 円＋税、後期 44,000 円＋税。定　員／ 18 名。
対　象／心身ともに健康で、本セミナー受講後、関連領域ピアカウンセラーを養成することができる者、または、今後養成を検討している者で、以下の（A）（B）（C）のいずれかに該当する者。
（A）思春期保健相談士又は当該分野に関する研修会、セミナー等を修了した者。
（B）教育機関等で、セクシュアリティ又は当該分野に関して、教授、研究している者。
（C）思春期又は当該分野で対象となる人々について理解し、これまで支援活動などの実践活動を行っている者。
問合せ先／〒 162-0843　東京都新宿区市谷田町１－10 保健会館新館　一般社団法人日本家族計画協会　研修課
TEL　03-3269-4785　　FAX　03-3267-2658
後　援／厚生労働省・公益社団法人日本助産師会・日本性教育協会

DV・性暴力被害にかかわる
支援者のための研修講座　2015

【コース】
〔A コース〕定員 60 名（すべての方が対象）
〔B コース〕定員 30 名（A コース全期を修了した方が対象）
〔C コース〕定員 20 名（A・B コース全期を修了した方が対象）
〔SANE コース〕定員 30 名（看護職の女性が対象）
★参加資格・受講料の詳細は http://shienkyo.com/kenshu/ で確認してください。

【日　程】
1期　7 月 18 日（土）　19 日（日）
2期　12 月 12 日（土）　13 日（日）
3期　2016 年 2 月 27 日（土）　28 日（日）

【会　場】東京有明医療大学
（東京都江東区有明 2-9-1）

【主催・問い合わせ先等】
主　催／ NPO 法人女性の安全と健康のための支援教育センター
問合せ先／ 113-0033 東京都文京区本郷 1-25-4 ベルスクエア本郷 7 階
FAX 03-5684-1412　Email：shienkyo@vega.ocn.ne.jp
http://shienkyo.com

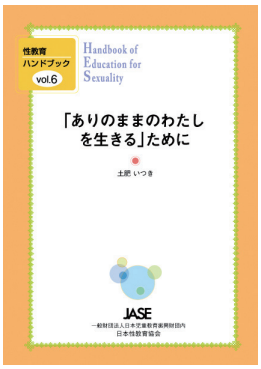
8月1日（土）～8月3日（月）

第 34回全国夏期セミナー四国大会 in道後
ひろげよう　ふかめよう　つづけよう　性の学び
～性を学んで変わっていくわたしたち～

内　容　1日目：記念講演「家事労働ハラスメント～生きづらさの根にあるもの」竹信三恵子（和光大学教授）、トーク＆トーク「性の学びと自己変革」ほか、2日目：小学校模擬授業、中学校模擬授業、高校模擬授業、障害児模擬授業ほか、3日目：理論講座①「『国際性教育実践ガイダンス』の視点を活かした実践とは」水野哲夫（『季刊 SEXUALITY』副編集長）、理論講座②「多様な視点を自らの力に変えるとき」安日泰子（やすひウィメンズヘルスクリニック院長）ほか。

会　場　子規記念博物館・愛媛大学（愛媛県松山市内）

主催・問い合わせ等
★参加費など詳細は、下記までお問合わせください。
主催・問合せ先／一般社団法人“人間と性”教育研究協議会
〒 151-0071　東京都渋谷区本町 1-7-16　初台ハイツ 1006 号
TEL　03-3379-7556（火・木曜日の 17 時～ 20 時）
FAX　03-3379-7561　http://www.seikyokyo.org



性教育ハンドブック Vol.6　　**好評発売中！**

『「ありのままのわたしを生きる」ために』

土肥いつき著　　◆A５判：86 頁、頒価 500 円

『現代性教育研究ジャーナル』に３年間連載された、「性別違和」である作者が悩みや葛藤の中で紡いできたありのままを語る自叙伝です。両親や友達との出会いの中で小さなトゲのような違和感を心の中の小さな箱の中にしまい込み、教員生活を送り、Ｊさんと出会い、そして SRS に向かい、女性として生きるわたしの航海を描いた新刊です。

主な内容

港にて（自分史の試み…）/ 船出のとき（小さなトゲのような思い…）/ 帆をあげる（教員生活のはじまり…）/ 舵を切る（「身体改造の」開始…）/ 嵐の中で / かすかに見えた航路 / 新たな旅へ

著者プロフィール

1985 年より京都府立高校教員。セクシュアルマイノリティ教職員ネットワーク副代表、トランスジェンダー生徒交流会世話人、まんまるの会（関西医科大学附属病院ジェンダークリニック受診者の会）世話人代表など。映画『coming out story』に出演。

既刊〈性教育ハンドブック〉

☆性教育ハンドブック Vol.5　『21 世紀の課題＝今こそ、エイズを考える』池上千寿子著　A5 判・68 頁 500 円

☆性教育ハンドブック Vol.4　『性教育の歴史を尋ねる～戦前編～』茂木輝順著　A5 判・92 頁 500 円

※送料：１～４冊 180 円、５冊～８冊 360 円、９冊 510 円、10 ～ 14 冊 870 円、15 冊～ 19 冊 1180 円、20 冊以上無料。

▶▶　８月９日（日）13：00 ～ 17：00　◀◀

関西性教育研修セミナー2015 夏

ミルトン・ダイアモンド　×　東　優子

Nature Loves diversity, but our society may not

人間の性をめぐる諸言説の本当と嘘

人気歌手のヒット曲でお馴染みの "Born this way"（生まれつきこうなんだ）は、性的しこうが「指向」であって、「志向」や「嗜好」じゃないということを強調する言説。「指向」が先天的なものであっても、そうでなくてもよさそうなのに、権利擁護運動においてコレが強調されるのは、その必要性があってのこと。でも、それはなぜ？　トランスジェンダーも生まれつきなの？　ポルノは有害か？　などなど…科学は「人間の性」の何をどこまで解明しているのか。

講　師

ミルトン・ダイアモンド氏

ハワイ大学医学部元教授（性科学）、GIRES 研究賞（英国:1999年･2010年）、マグヌス･ヒルシュフェルト賞（ドイツ:2000 年）、アジア･オセアニア性科学連合賞（2005 年）、キンゼイ賞（米国:2011 年）、WAS 金賞（2015 年）など受賞。著書に『人間の性とは何か』（小学館）等。

東　優子氏

大阪府立大学教授（性科学・ジェンダー研究）・女性学研究センター副主任。世界性の健康学会（WAS）「性の権利委員会」委員長。

会　場

大阪府立大学「I-site なんば」（南海なんば第１ビル）

大阪市浪速区敷津東２－１－41　　TEL 06-7656-0441（代表）※会場の問い合わせのみ

参加費・申込み先等

参加費：一般 1,000 円、学生 500 円　　**主　催**：関西性教育研修セミナー実行委員会　　**協　賛**：日本性教育協会

事前申込み先：E-mail　higashi@sw.osakafu-u.ac.jp あるいは FAX 072-254-9793（お名前・所属・連絡先を明記してお申込下さい）

※空席があれば当日参加可能です